

感動新聞 平成22年6月号 発行者 細川栄一

皆様、お元気ですか？ 笑顔、元気、素直、そして明るい挨拶が一番です。これからもよろしく願い申し上げます。ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

「挨拶」とは存在を認める

「必要」だとわかっているのに出来ない

元気な声で挨拶ができる職場を作りたい。
どんな上司もそう思っている。
ところが、「挨拶をするように」といくら繰り返し言ったところで、部下はなかなかしない。
理由は簡単。
「なぜ、挨拶をしなければならないのか」
部下も上司もそれをうまく説明できないからだ。

なんとか、全員が自主的に挨拶できる職場を作りたい。
そう考えて「挨拶が必要だ」という論理的な説明を、考えることにした。

「人に声をかけることは、心をかけることである」
という言葉があります。

そこで自社のクレドとして発表することとした。
クレドとは、組織の一員として守るべき信条であり、果たすべき約束のことである。
日本語では「行動指針」と言ったらわかりやすいだろう。

「私たちは、きちんと挨拶をします。
挨拶をすることは、そこにその人が存在していることを認める行為です。
私たちは一人でできる仕事以上にレベルの高い仕事を素晴らしい仲間を共に果たしたいと考えています。よって私たちは仲間を認め、きちんと挨拶します。
そして、助け合える仲間の存在を素直に感謝します。」

私は部下たちに、人に出会って挨拶をしない人は、
『「居てもいなくても一緒」「いない方がよかった」「見たくなかった」
との無言のメッセージを発信しているのと同じだ。』と語った。
仮に本人がそのつもりがなくても、無視された方はそう受け止める。
だから、誰だって頭に来るのだ。
しかし、そんなことを望んでいる人は、ここにはいない。
このメンバーなら、お互いの存在に感謝しているはずだ。
だから、きちんと挨拶しよう。
そう語りかけた。

するとどうだろう。
翌日から全員が挨拶をし始めたのだ。
一番声の小さなメンバーはもちろん、私自身も抵抗なく挨拶することができたのだ。

参考著書「スーパー上司力！」酒井英之 アーク出版 より抜粋

挨拶がきちんとできる会社の業績が良いのは、決して偶然ではない。
挨拶はコミュニケーションの基本である。
普段から挨拶がきちんと出来るからこそ、報告・連絡・相談が、正しいタイミングで出来るのだ。
自分の組織を、きちんと挨拶のできる部門に変えられるか。
リーダーは、自分自身が試されているのだと思って挑戦してほしい。